

2019年度事業者防災訓練 訓練課題対応資料

1. 2019年度訓練における確認された課題について、下記のカテゴリーに分類し、それぞれに対する原因分析、対策案を表-1に示す。

(カテゴリー分類)

- (1) 緊急時対策所の対応
 - 1-1) 進展予測・戦略
 - 1-2) 情報の整理／共有
 - 1-3) 現場対応班との情報共有
- (2) 通報連絡書の作成
- (3) ERC 対応
 - 3-1) 情報の整理
 - 3-2) 情報の伝達

また、2019年度訓練における確認された課題のうち、内部レベルアップ事項について、下記のカテゴリーに分類し、それぞれに対する原因分析、対策案を表-2に示す。

(カテゴリー分類)

- (1) 緊急時対策所の対応
- (2) 現場対応
 - 2-1) 保護具の装着
 - 2-2) 汚染拡大防止
- (3) 訓練シナリオ

2. 情報フローについての自己評価
添付の情報フロー図に問題はなかった。

2019年度訓練課題

分類	項目	① あるべき姿、②問題点／課題、③原因、④対策	パンチリスト番号
(1) 緊急時 対策所の 対応	1-1) 進展予測 ・戦略	<p>① あるべき姿；発災事象の進展予測、戦略を適切に説明する。</p> <p>② 問題点／課題；発災事象の状況を踏まえた進展予測の説明ができなかった。また、発災事象への対応の方針や計画が十分に説明できなかった。</p> <p>③ 原因；発災事象の進展予測や戦略を共有するための「戦略シート」を作成したものの、シートの目的及び手順を原子力防災組織活動要領（以下、「要領」という。）に定めていなかった。</p> <p>④ 対策；緊急時活動レベルに対応する「戦略シート」を見直すとともに、火災やその他の事象に対応する「戦略シート」を新規作成し、シートの目的及び手順を要領に定め、教育を実施し、要素訓練にて効果を確認する。</p>	2 14 39 42 45
	1-2) 情報の整 理／共有	<p>① あるべき姿；気象情報を適時収集し、緊急時対策所で共有する。</p> <p>② 問題点／課題；気象情報が継続的に収集されず、天候の変化に応じた気象情報の確認ができなかった。</p> <p>③ 原因；事象発生から気象情報を継続的に収集し、緊急時対策所で共有することが不明確だった。</p> <p>④ 対策；気象情報は継続的に収集することを明確にし、その情報を緊急時対策所で共有することを放射線管理班の手順に定める。また、ERC 対応者の補助者は気象情報を継続的に収集し ERC 対応者に伝達すること、ERC 対応者は補助者からの気象情報を継続的に ERC に伝達することを要領に定め、教育を実施し、要素訓練にて効果を確認する。</p>	7 41 47

(1) 緊急時 対策所の 対応	1-2) 情報の整 理／共有	<p>① あるべき姿；発生事象が整理でき、その情報を緊急時対策所で共有する。</p> <p>② 問題点／課題；緊急時対策所のホワイトボードの記載内容（時系列、放射線状況）以外の情報を整理し、ERC 対応者と共有できなかった。</p> <p>③ 原因；緊急時対策所では収集した情報を整理する運用が不明確だった。</p> <p>④ 対策；緊急時対策所は収集した情報を整理することを要領に定め、教育を実施し、要素訓練にて効果を確認する。また、その情報を緊急時対策所及びERC 対応者が速やかに共有できるよう緊急時対策所のレイアウトを検討する。</p>	9 22
		<p>① あるべき姿；「発生事象整理シート」を適切に作成し、ERC 対応者と情報共有する。</p> <p>② 問題点／課題；「発生事象整理シート」の記載項目の精査が不十分であった。また、シートの記載内容に不備があった。</p> <p>③ 原因；「発生事象整理シート」の記載項目、記載方法、運用方法が不明確だった。</p> <p>④ 対策；「発生事象整理シート」の記載項目を精査し、記載方法、運用方法を要領に定め、教育を実施し、要素訓練にて効果を確認する。</p>	22 28 32 33
	1-3) 現場対応 班との情 報共有	<p>① あるべき姿；重要な情報は緊急時対策所から現場対応班へ情報発信する。</p> <p>② 問題点／課題；原子力災害対策特別措置法（以下、「原災法」という。）第 10 条に該当したことは現場対応班と情報共有したが、原災法第 15 条に該当したことは情報共有できなかった。</p> <p>③ 原因；緊急時対策所が現場対応班と共有すべき情報が不明確だった。</p> <p>④ 対策；緊急時対策所と現場対応班が共有すべき情報を明確にし、重要な情報を漏れなく共有することを緊急時対策所の現場対応班（連絡担当）の職務として要領に定め、教育を実施し、要素訓練にて効果を確認する。</p>	49

(2) 通報連絡書の作成	通報連絡書の作成	<p>① あるべき姿；適切な通報連絡書を作成する。</p> <p>② 問題点／課題；通報連絡書全般において誤記、脱字があった。</p> <p>緊急時活動レベルの基準値を下回ったことを原災法第 25 条報告として応急措置の概要で報告できなかった。</p> <p>応急措置の概要で前報の記載事項と同じ内容を手書きしており、非効率であった。</p> <p>③ 原因；前年度訓練の課題への対策を踏まえた教育・訓練が不十分であった。(教育 2 回、要素訓練 1 回)</p> <p>④ 対策；通報連絡書作成の効率化を検討し、連絡調整班(通報連絡書の作成担当)及びチェック者向けの教育・訓練を繰り返し実施し、要素訓練にて効果を確認する。また、通報連絡書様式の気象情報の項目に予め観測時刻を付与した様式を緊急時対策所に配備する。</p>	<p>10</p> <p>12</p> <p>22</p> <p>28</p> <p>29</p> <p>30</p> <p>34</p> <p>35</p> <p>36</p> <p>37</p> <p>38</p> <p>40</p> <p>41</p>
(3) ERC 対応	3-1) 情報の整理	<p>① あるべき姿；情報を整理し、事象全般を俯瞰する視点に立ち、ERC に情報提供する。</p> <p>② 問題点／課題；放射線状況や施設状況に係る情報の整理ができず、事象全般を俯瞰した説明ができなかった。また、重要な情報を速やかに説明ができなかった。</p> <p>③ 原因；ERC 対応者の補助者を 2 名配置したが、初期段階で役割分担が徹底されていなかった。ERC 対応者の補助者のフォロー体制がなかった。</p> <p>前年度訓練の課題への対策の教育・訓練が計画的でなかったため不足した。</p> <p>FAX 通報文の記載内容を十分に把握できなかった。</p> <p>④ 対策；初期段階で ERC 対応者の補助者の役割分担を明確にすることを手順に定め、積極的に行動するよう補助者向けの教育・訓練を繰り返し実施する。事象進展が早い時のフォロー体制を検討する。</p> <p>ERC 対応者及び補助者向けの訓練を繰り返し実施する計画を作成し、要素訓練にて効果を確認する。</p>	<p>3</p> <p>7</p> <p>10</p> <p>13</p> <p>17</p> <p>20</p> <p>27</p> <p>43</p>

(3) ERC 対応	3-2) 情報の伝達	<p>① あるべき姿；設備や対応措置の説明は資料を用いて丁寧に説明する。</p> <p>② 問題点／課題；情報伝達は口頭によるものが多く、ERC 書架資料又は FAX 送信による資料を用いた丁寧な説明ができなかった。</p> <p>③ 原因；故障した設備の説明に適した資料を ERC 書架資料として配備していなかった。放射線状況の変動グラフの取扱いを手順に定めていなかった。</p> <p>日本原燃(株)と対応措置の関連性に係る情報や想定 QA を準備していなかった。丁寧に説明を心掛けることの意識が不足した。</p> <p>「判断根拠説明ロジック図」において、中性子線を計測し合計値を評価することを図に示していなかった。(補足説明文として記載していた。)</p> <p>④ 対策；主要な設備の説明資料を精査し、ERC 書架資料を充実させる。放射線状況の変動グラフの取扱い手順を定め、放射線管理班向けの訓練を繰り返し実施し、要素訓練にて効果を確認する。</p> <p>日本原燃(株)の情報、想定 QA を準備する。ERC 対応者のブースに ERC へ情報伝達する際の注意事項・心得を掲示する。</p> <p>「判断根拠説明ロジック図」を見直し、ERC 対応者向けの訓練を繰り返し実施し、要素訓練にて効果を確認する。</p>	6 16 19 23 24 25 26 46
------------	---------------	---	---

2019年度訓練課題

分類	項目	①あるべき姿、②問題点／課題、③原因、④対策	パンフレット番号
(1) 緊急時 対策所の 対応	情報の伝 達	<p>① あるべき姿；必要な資料を漏れなく ERC に FAX 送信する。</p> <p>② 問題点／課題；「発生事象整理シート」の第3報の FAX 送信ができなかった。</p> <p>③ 原因；「発生事象整理シート」作成後の運用方法が不明確であった。</p> <p>④ 対策；「発生事象整理シート」を ERC に FAX 送信することを要領に定め、教育を実施し、要素訓練にて効果を確認する。また、FAX 送信状況を把握できるようホワイトボード、送信管理シート等の運用を検討する。</p>	1 31
(2) 現場対 応	2-1) 保護具の 装着	<p>① あるべき姿；発生事象に応じて適切な保護具を装着し活動する。</p> <p>② 問題点／課題；地震発生後、ヘルメット不足により1名が未装着の状態であった。</p> <p>③ 原因；ヘルメットの配備数が少なかった。</p> <p>④ 対策；ヘルメットの配備数を増やす。</p>	50
	2-2) 汚染拡大 防止	<p>① あるべき姿；管理区域用衣服を適切に着装する。</p> <p>② 問題点／課題；管理区域用衣服のファスナーを確実に締めていなかった。</p> <p>③ 原因；汚染拡大防止の意識が不足していた。</p> <p>④ 対策；管理区域用衣服の着装を再周知し、定期的に立哨指導及び現場巡視を行い、効果を確認する。必要に応じて現場作業者が相互に着装状態をチェックする仕組みを検討する。</p>	52
(3) 訓練シ ナリオ	訓練対応 不備、レ ベルアッ プ	<p>① あるべき姿；訓練シナリオに沿った効果的な訓練を実施する。</p> <p>② 問題点／課題；現場対応班の状況判断及び対応措置において、実働と訓練シナリオの時間進展に差が生じ、実態に即した訓練ができなかった。</p>	8 18 48

<p>(3) 訓練シナリオ</p>	<p>訓練対応不備、レベルアップ</p>	<p>日本原燃(株)の環境下にあることを踏まえた情報提供や情報収集ができなかった。</p> <p>③ 原因；現場対応班の実動時間の評価不足であった。 日本原燃(株)との情報共有は、事象発生の電話連絡受信、通報連絡書の FAX 受信を実動で実施し、それ以外の情報共有は訓練シナリオに組み込んでなかった。</p> <p>④ 対策；訓練シナリオの検討は、現場対応班の視点に立ち、実動時間を事前に評価し、より実態に即した訓練シナリオを作成する。 日本原燃(株)の環境下にあることを踏まえ、日本原燃(株)への影響、日本原燃(株)との連携を想定し、それらの情報を ERC と共有する等、より実態に即した訓練シナリオを作成し、日本原燃(株)の協力のもと訓練を実施することを検討する。</p>	
-------------------	----------------------	--	--